

春 麦 御 書

建治二年五月二八日 五五歳

女房の御参詣こそゆめともうつゝともありがたく候ひしか。心ざしはちがはせ申さず。
当時の御いもふゆのたかうなのごとし。あになつのゆきにことならむ。
つきむぎ ひとこ たかな
春麦一俵・芋一籠・笋二丸給ひ畢んぬ。 五月廿八日勸